同窓会報
（第40号）
発行所　〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
県立千葉高等学校同窓会
印刷所　千葉市中央区都町1-13-16
TEL. 043-233-9671
有限会社 プリントピア

県立千葉中学校校舎の完成を祝う

同窓会会長　霜　礼次郎
（昭和三十一年卒）

創立一二五周年記念事業の最後の事業として、千葉県立千葉中学校の併設、そして旧テニスコートに建築中だった、教室等と体育館を合体した中学校棟が完成しました。

また、本年四月には、併設中学校を巣立った八〇名の若者が、千葉高に入学し同窓生の仲間入りを致します。

公立高校に、中学校が併設されるという事で、全国的にも注目の的となり、見学者が絶えない現在、これで満足の出来る説明が可能となったのではと、ほっとしております。

歴代の校長先生方の御努力と同窓諸氏の御理解と御協力に対しまして、心から厚く御礼と感謝を申し上げます。

本年七月中旬に母校との共催で、中学校棟完成祝賀会を盛大に開催したいと考えておりますので、多くの同窓諸氏のご出席をお願い致します。

この慶事を同窓一同で、お互いに慶び合いたいと思います。

千葉県立
千葉中学校校章

県立千葉中学・高校の近況

校長　髙岡正幸

日頃より本校の教育活動に対するご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

昨年四月から江崎校長先生の後任として、勤務することになった髙岡です。百三十二年の伝統を誇る県立千葉高校の校長としての責務を考えると心身とも引き締まる思いです。よろしくお願いします。

最初に、懸案だった県立千葉中学校新校舎については、無事引っ越しも終了し、昨年十月十二日より使用を開始しております。財政厳しき折にも関わらず、新校舎竣工がなったことは同窓会他各方面からのご支援の賜と深く感謝申し上げます。

校舎屋上には、太陽光の発電パネルも設置され、天気の良い日には、生徒教室内の全ての蛍光灯の消費電力ぐらいを発電できているようです。昼休み、わずかな時間を利用して中学生が思い思いにバスケットやバレーボールをしている姿や、雨天の時など、中学棟体育館が空いている時は、高校生の体育にも利用されている様子を見ると新校舎ができて良かったとの思いを強くします。当然のことですが、高い志を持ち精進を続けても、それを支えるのは強靭な体力と精神力であることは言うまでもありません。その意味で、いつでも体を動かせる施設が教室に近接しているのは有り難いことです。

また、内外で、地域トップ高校に設置された中高一貫校は注目されているらしく、昨年五月のタイ王国サケオ県（カンボジア国境の県）知事、同副知事以下五十五名の教育視察団の来校に続き、同六月には中国広東省茂名学院成人教育学院校長考察団が約三十名来校しました。タイ国使節団はバンコクが首相派と反首相派で大騒動の時であり、それを押しての来訪に、そのおおらかな国民性と真面目な姿勢に感心したり、中国使節団からは、どうして教員がみんな給料が同じなのだと疑問を抱かれたりと、千葉高校にいるだけでも国情の違いが認識できる機会に恵まれます。

一月には韓国から三十名の使節団が来校され、中学の給食を食べさせて欲しいとの注文があり、一緒に会食したところです。勿論、日本国内の教育関係者、塾、予備校の見学等もひっきりなしにありますが、税金で創設された公立の一貫校はある意味で実験校でもありますので、当然の責務だと考え、丁寧に対応を心がけております。

各地域の同窓会支部総会には事情が許す限り出席させていただいておりますが、同窓各位には、母校千葉高校に寄せる誇りと愛情をひしひしと感じます。昨年十月二十六日には、今年度で七回目となる第二学年総合学習外部講師講演会「先輩に学ぶ」が第四十一回卒業生岡崎真氏のご尽力で実施されました。言語聴覚士、大手総合商社管理職、世界を撮り歩くプロ写真家、大手電機メーカー主任研究員、農学博士で農水省関係機関研究員、プロ陶芸家など、多彩な卒業生の方々が自分の高校時代から今の職業に至る人生を熱く語っていただきました。十月下旬、千葉工業大学を会場に全国高校進学指導研究大会が開催されました。そのシンポジウムにパネラーとして参加した際、パネラーの一人である元ＮＨＫキヤスターで現在千葉商大政策情報学部長をしている宮崎緑さんに、「バデュー大学根岸教授のノーベル

賞受賞、湘南高校の後輩として喜ばしいことですね。」と申し上げたら、嬉しそうでした。千葉高校卒業生からも是非湘南高校に続きたいと、会場の参加者の前で言ってしまいました。私は佐原高校の出身で同窓ではありませんが、職員一丸となって千葉高校の伝統をより高められるよう、全力を傾注したいと思います。

最後になりましたが、千葉中学・高校生が社会にとって有為な人材となるよう、引き続き同窓各位の有形無形のご支援をお願い申し上げます。

千葉高同窓生 一貫交流

同窓会副会長
永田忠以
（昭和三十七年卒）

平成二十年、六十四年続いた定時制課程が閉課され、母校では中高一貫の教育が始まりました。定時制が千葉高での役目を終えたことに対し、同窓会報三十九号における江崎校長先生の「何のための中高一貫教育か」をお読みいただければ、教育環境の変化に伴う、これから千葉高に求められる姿に理解を示していかなければならないかもしれません。

さて定時制（以下夜間部）には、卒業生の交流の場が幾つかありました。今回会報の寄稿にあたり、その交流の場を紹介させていただきたく一筆記します。

まずは「千一夜会」という会があります。この会は、夜間部を支えてきてくださった職員、教員の方々との会でした。私も、恩師の先生方と親睦を深めさせて頂きました。そして「学年会」というものがあります。私が卒業した昭和三十七年の学年会もまた楽しみです。毎回、会報を拝見するたびに、昼夜ともども多くの企画のもとに親睦を深めている様子が伺えます。

最後に、夜間部の同窓会として「葛の花会」があります。こちらは昼間部の卒業生の参加はできません。しかし夜間部の卒業生は、「葛の花会」の参加のみならず、昼間部との同窓会にも参加できます。

このことは大変幸せなことであります。夜間部は閉課されましたが、「葛の花会」はこれまで通り毎年六月に開催されます。是非とも「葛の花会」と併せて、定時制課程を卒業した方々にも千葉高同窓会へも積極的に参加して頂けば幸甚です。

校庭の石碑には、「葛の花咲くこの丘に　集いし仲間永遠に輝け」と刻まれています。定時制無き今も、多くの卒業生との交流が続いております。母校は中高一貫という姿になりました。そういう意味では、同窓会も昼間部と夜間部一貫という交流の場になっていくことでしょう。いつの日か昼夜共々の同学年が会を催していけたらという積年の思いが叶っていくことは嬉しい限りです。

副会長に就任して

同窓会副会長
鈴木一郎
（昭和三十五年卒）

千葉高同窓会の皆様方にはご清祥のこととお喜び申し上げます。小生昨年二月六日に開催された、平成二十二年度同窓会総会にて副会長に選任されました。

私は昭和三十五年卒です。当時は安田裕校長先生で、全校生を前に話される立派な姿が未だに目に浮かびます。また、数学のワッサ（早崎準一郎）先生、英語のヨネポン（米津泰助）先生、物理の稲葉正先生の講義は印象深く思い出します。稲葉先生には時々お手紙を頂いておりましたが、昨年十一月にご逝去されたと聞き残念に思っています。

入学当時は身体の弱い、いわゆる虚弱児童で、入学試験も保健室で寝ながら受ける始末でした。保健室のヨーチン婆さんと

失礼な渾名でお呼びしていた、養護教諭の竹内たきさんにはその時から三年間、随分とお世話になった記憶があります。

剣道部に入部して、臼井先輩、高橋先輩などの先輩方にボコボコ殴られているうちに、お陰様で身体も丈夫になり、千葉大学医学部に入ることができました。卒業後は一番きついと言われている外科医の道に進むことができ、三年前に国立病院機構千葉医療センター（旧国立千葉病院）を退官するまで、すこぶる健康でその責を果たす事ができました。

千葉高時代は受験勉強の通り道のように思っていましたが、こうして振り返ると平凡だった高校生活にも懐かしい先生、先輩、そして友人の沢山詰まった三年間だったと思います。年経た今も珊瑚会（三十五年卒）を中心に当時の同窓の仲間とは今も変わらぬお付き合いをしていただいています。

「鶺鴒は旧林を恋い　池魚は故淵を思う」。私自身そんな歳になったかと思うと同時に、こうして副会長として改めて分厚い百三十周年記念同窓会名簿を手にとって、母校の歴史の重みを改めて感じています。

同窓会会則第一条には、「本会は会員相互の融和と同時に母校の発展に寄与することを目的とする」とあります。

奇しくもこの時期母校は中高一貫校となり、県内の飛びぬけた秀才を集めています。一方で学校としてそれに見合う環境はいまだ十分とは言えず、当面は設備面、運動場の拡充などの問題が進行中と聞きます。

これからも同窓生各位のお力添えが必要になることと思いますが、その節は何とぞよろしくお願いいたします。私自身皆様のご支援を受けて、霜会長を補佐して行きたいと考えております。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局だより

同窓会事務局長　阿佐幸雄（昭和三十五年卒）

＊更なるＨＰの活用を

昨年三月に発行致しました「百三十周年版同窓会名簿」の販売も同窓の皆様のお陰でもう少しで目標達成になります。

前号で同窓会ホームページ（ＨＰ）の活用を呼びかけましたが、住所登録や総会登録、同窓会コミュニティサイト（ＣＳサイト）登録が順調に増えています。

今回の総会へもＨＰからの登録も増えつつあり、年度理事の皆様のＩＴ化が進んでいることが感じられます。

同窓生で住所不明の方々をＨＰに掲載したところ、個人情報保護法からフルネームを載せるのはけしからん、提訴するとの苦情電話が学校に頻繁に掛かるため、登録制のＣＳサイトを作りそこに掲載しています。（検索をしても認識出来ないページです）

一昨年から卒業生に同期生の名簿が渡されなくなりました。これも個人情報保護法の名の下に行われていることですが、そのような状況では、同期会はおろかクラス会まで名簿が無いため出来なくなる恐れがあります。

＊同期会・各地支部開催支援を行います

同窓会としては、同窓生情報の掌握に今後も努めて行きたいと思いますが、これは名簿作成の為だけでなく、各年度の同期会や各地の支部総会を開催するために多いに活用して頂きたいと思います。

同期会幹事、各支部役員のお申し出をお待ちします。

昨年から開催している「成人記念同期会」は、他校の同窓会が注目しているようで、問い合わせが何件かあります。若い年度の掘り起こしのためにも、何とか定着するよう努めたいと思います。

まだ販売をしています、お買い求めください。
同窓会名簿130周年版
九、〇〇〇円（送料・税込み）

支部だより

☆千葉葛城会

副会長 佐川信夫（昭和三十三年卒）

本会は霜同窓会長の達ての要望で数回の準備会を経て、二十一年六月四日設立総会の開催に漕ぎ着けました。

同窓会名簿上対象となる千葉市内居住者だけでも、総会員数の約三割九千余名もおりますので、連絡方法、どのように取りまとめて行くか、暗中模索の船出となりましたが、百五十余名が集い、来賓として挨拶された霜会長も喜んでおりました。

第二回は二十二年七月三日ホテルグリーンタワーで開催、初会より若干少ない百三十余名の参加でしたが、役員一同ほっと胸をなでおろしました。

毎年千葉市内で開催される本部同窓会との兼ね合い、開催時期は夏で良かったと思いますが区別化をどうすれば良いのか悩みは尽きません。千葉滋胤会長、井谷事務局長を中心として確固たる会にしたいと思います。対象となる会員の皆様の参加を切にお願いいたします。

☆長生茂原葛城会

会長 永野　剛（昭和二十六年卒）

平成二十二年十月三日（土）茂原市、一茂で第五十五回支部総会を催しました。二十三人が集まりました。今年は昭和十一年から四十五年卒業までの参加者となりました。数は少ないですが、支部最古の会が自慢です。

もう一つ楽しいことがあります。宴半ばに事務局長さんの掛け声で、皆さんの近況報告を致します。これが気持いいんです、話す方も聞く方も。千葉中の思い出から昨日のことまで、自慢話も失敗談も、困ったや嬉しいよ、もあるのですが、全員静かに、にこにこと耳を傾けます。大分前になりますが、参加した校長先生が流石と吃驚しました。

皆さん、カモンナ・マイ葛城会。お話に来てみませんか、大歓迎。

☆養信会（市原支部）

会長 鈴木雅博（昭和三十三年卒）

養信会の総会を、平成二十二年六月五日五井グランドホテルにて開催致しました。ご来賓として霜同窓会長と江崎千葉高前校長のご出席を頂き、五十二名の同窓生の出席でした。

会は、中村好成氏（三十四年卒）の司会により進められ、終始和やかで、予定の二時間が、あっと言う間に過ぎてしまう楽しい会となりました。

ご来賓の霜会長からは、中学校併設に伴う施設整備等に、先輩諸氏のご尽力をいただいたこと、創立百三十年版同窓会名簿の購入にご協力をとのお話をされ、また江崎前校長先生からは、進学状況、中高一貫教育の取り組み等について力強いお話をいただきました。

最後は、相変わらず元気いっぱいの斉藤雅次先生（二十年卒）のリードで、校歌を高らかに歌って、名残惜しいなか閉会いたしました。

☆船橋葛城会

武井典子（昭和五十九年卒）

第三十二回船橋葛城会は、五月二十三日（日）に西船フローラで開催されました。

昨年にひき続き、昭和四十七年卒の油井宏子さんに古文書について講演していただきました。一見難しそうな古文書も、油井先生に読み解いて頂くうちに、江戸時代がつい最近のことのように身近に感じられてきました。

また今回はラグビー部ＯＢの方々がユニフォーム着用で参加してくださり、とても新鮮で活気に満ちた総会となりました。

初めてお目にかかった方でも同窓であるという繋がりから、年代の分け隔てなく楽しめる会であるということを再認識し、このご縁がさらに広がって多くの方々と出会えることを願っております。

☆佐倉葛城会

副会長 山田敏夫（昭和四十二年卒）

佐倉葛城会は、例年四月に総

会を開催していましたが、平成二十二年度は諸事情から十一月二十一日（日）、房州屋本店において開催しました。

総会に先立ち、有志が歴史民俗博物館前に集まり、佐倉城址公園の紅葉狩を楽しみました。最盛期にはやや早かったものの、銀杏の黄色、楓の赤と佐倉城址の豊かな自然を満喫しました。

総会には、髙岡校長と同窓会本部から阿佐事務局長も駆けつけて頂き、船橋葛城会、成田葛城会からも参加を頂きました。また新しい会員も三名が参加され、同窓の先輩、後輩との和やかなお話に、時の経つのも忘れ楽しいひと時を過ごしました。

平成二十三年は佐倉城址公園の桜を楽しみながら総会を開く予定です。

☆東金葛城会

幹事　岸本雅邦
（昭和三十九年卒）

東金葛城会は昭和五十八年に上田鉄雄氏（昭和二年卒）を初代会長として発足し、第三十二回目の東金葛城会の総会を、割烹料亭志津本で平成二十二年四月四日に開催致しました。

当日は有志でゴルフコンペも開催し、懇親を深める事が出来ました。

総会の席で木村会長（昭和三十一年卒）より、二月六日にアパホテル東京ベイ幕張で開催された千葉高同窓会の報告があり、現況や同窓生の御活躍の状況等をお聞きし、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。また当日は、八鶴湖畔の花火大会もあり、印象深い総会となりました。平成二十三年は四月三日（日）に東金葛城会を開催の予定です。

☆東京葛城会

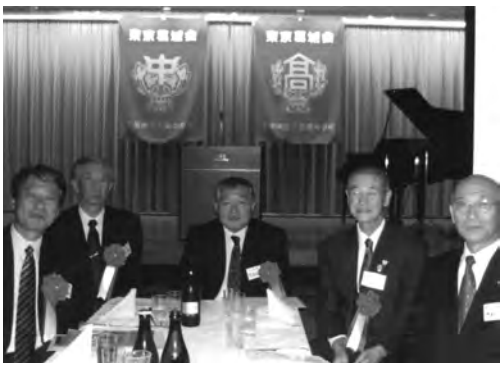
事務局長　箕輪正美
（昭和四十四年卒）

東京葛城会の総会・懇親会は、昭和六十年以降、毎年上野精養軒を会場として開催されております。

我が会の会員である昭和二十七年卒の御園生碧樹さんが上野精養軒の社長をされていたこともあり、年三回の幹事会と秋に開催される総会・懇親会の会場をお願いしていますが、従業員のホスピタリティーは勿論、料理に関しても十分以上の内容のものを提供していただいており、参加者皆さまの評価も大変高いと感じています。

平成二十二年度の総会・懇親会は、十月二十一日（木）午後六時三十分開始で、例年通り精養軒三階の大宴会場に百余名の同窓生が集い、鈴木一郎同窓会副会長、髙岡正幸学校長、江﨑俊夫先生（前校長）、吉野弘先生をお迎えして開催されました。

今年は第五十一回の総会・懇親会ということで、昭和五十一年卒業の川添公貴、山崎真両君が担当年度幹事として企画及び当日の進行を取り仕切って頂き、大変楽しく和やかな会にすることができました。


左より江﨑前校長、鈴木副会長、髙岡現校長、吉野先生、中村会長

新設千葉中学の現状に関しては、同窓の方は皆様関心のあるところですが、その創設に関わってこられた江﨑先生と髙岡学校長から色々お話しをして頂けたことは大変ありがたかったと思います。

新設千葉中学の卒業生を含め、若い人達に東京葛城会の輪を是非広げ、世代をつないでいかな

ければならないと実感しております。

平成二十三年度の総会・懇親会は十月十九日（水）午後六時三十分より上野精養軒で開催されます。水曜日を早帰りとする会社が最近多いようですので、働き盛りの若い世代の多数の参加を期待したいと思います。

OB会だより

☆ラグビー部OB会

OB会長　長　英連
（昭和五十二年卒）

初めて、投稿いたします。

ラグビー部は昭和四十七年に創部、以来、関東大会に九回、全国大会に二回出場し、全国大会でも勝利を記録しています。ここ二十年近く、県内では流通経済大付属柏校の強さが抜きん出ていますが、平成二十年に現監督の鈴木学教諭が着任後、保護者会とOB会を立ち上げ、現役支援の体制を整え「三回目の全国大会出場」を合言葉に活動しています。全国大会千葉県大会では、一昨年はベスト14、昨年はベスト8まで勝ち進み、現在はベスト4進出を目標に「文武両道」の実現を目指しています。

OB会も技術指導、練習相手と資金面で現役の支援をするとともに、春と夏の総会・懇親会に百名余りが集い、現役の活躍と自身の思い出のプレー談義で大いに盛り上がっています。

更に今年、平成二十三年度を創部四十周年として、記念行事の準備にも取り掛かっており、同窓会総会や葛城会には、ラグビー部OBも積極的に参加し、記念行事の紹介をさせていただきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学年短信

●昭和十三年卒

鈴木尚純

いざや会の幹事原田君の健康が思わしくなく、同窓会を数年間開催されなかったので石原さんと相談し、早野、古山、中村、井上の六人がそごう十階、伊勢定（うなぎ屋）で十月十四日食事会を行い、今後のことにつき相談した。

その結果九十才になり、皆、病気もちで幹事の引受手がないので、いざや会は解散することになった。同窓会発足以来七十年余りになるが、石原さんを名誉会長とし、故西田氏等代々の幹事の協力により今日迄続けられた。石原さんは尊敬する阿部能成一高校長の〝世の塩たれ〟の訓辞の通り市井の健康のよき相談相手になっていたが、十二月で惜しまれて閉院することとなった。我々の青春は戦争最中で九十才迄生を受けたことは奇績と思われます。終戦時同窓生の中に腹を切り自殺をしたとの噂を聞いた。教育とは恐ろしいものであり又大切なものと思われます。

千葉中学、高校及び同窓会の皆様の健康と幸福を切に祈ります。

小生の投稿はこれで終わりとします。

●昭和十七年卒

内山清春

同期生の近況活動は、老齢に加え体調をくずした方多く、お互いの連絡もままならず過しております。本年は三名、長谷部儀一、木嶋勝美、荒居義富君が他界された正確な訃報を頂き、又耳にしました。私自身入退院を繰り返し、その責任を果たしえない状況にて、誠に申訳なく思っております。（十二月十日記）

●昭和二十年五卒（新葉会）

足木茂和

我々の同期会を「新葉会」という。昭和三十八年に第一回が行われて以来、昨年の総会で十七回目を迎えた。

三つの思い出を話したい。

一つは平成五年の第十回総会では記念文集「激動の昭和とともに」の出版祝賀をかねて開かれた。実はわが学年には卒業アルバムがないし、卒業式に出席したか定かでないのである。そこで中学時代の思い出や卒業後の人生の歩みを記念に残そうということになった。なお回想のため千葉中五年間の記録・新葉会総会の歴史・当時の恩師・激動の昭和の歴史年表（国内外・千葉県版）・会員名簿等をのせると共に、先輩の千葉県知事沼田武氏の巻頭言をいただき、総会にもご出席いただいた。昭和が始まるときに生まれ昭和が終わるとき大部分が第二の人生を始めた。文集のタイトルを「激動の昭和とともに」としたゆえんである。

次に平成七年第十一回総会で千葉中卒業五十周年を記念し、校門近くにソメイヨシノを植樹した。図書館前の桜を対になるよう考えた。校長先生を迎え植樹祭を催した。春になると今でも美しく咲き誇っている。

次に房総西線会についてである。今年も一月に開かれた。学校に通学するのに房総西線の汽車を利用していた。女学生は前二輌に、中学生は後二輌にと乗車していた。同期の通学仲間として地方色豊かな格別の思い出深い会である。

母校の益々の充実発展を祈る。

●昭和二十年四卒（禄寿会）

猪田昭三

一年・二年で幼年学校、三年で予科練を志願した者、戦時特例繰り上げ四年卒、六十回卒業生の集いの「禄寿会」は毎年六月十日前後の日曜日に総会・懇親会を、ほてい家で行なって居たが、足腰の弱った者が増え、今年は交通の便の良い京成千葉の東天紅で行なった。

事務局（板橋恆君）作成の生存者名簿一一〇名中、二十三名が出席。和気藹々。昔話に花が咲き、戦時中頑張り、オキュパイド・ジャパンに堪え、戦後復興に尽し、高度成長を支えた兵も傘寿を過ぎ、関心は専ら余生の事ばかり。幸に同期に医者が多く、後期高齢者医療、生活習慣病、毎日の頭、体の使い方、食事の方法、ストレス解消法等々尽きぬ話の中に来年も又元気で再会を約して散会。

●昭和二十二年卒

斎藤喜久三

六月第一土曜日は、雨が降っても槍が降っても21年22年卒の同期会を「ほてい家」で開催。開会に先立ち有力幹事の渡辺昭君が同期会目前に逝去され、一同故人の功績を偲び黙祷。

考えてみると月日の経つのは早いもので、来年は三十五回連続になる。74才迄続いた隔年の一泊同期会が懐かしい。そして何年経っても忘れることが出来ないのは、千葉中時代である。正直80才を過ぎると面倒なものは皆忘れて、楽しかったことだけになる。

その第一が千葉中時代の戦争中で楽しき時代は2年迄。3年4年は勤労動員先の工場で飛行機（雷電）局地戦闘機の製造。敵国語の英語の授業は廃止となり萬才?今の中学生には到底考えもつかないことばかりである。

米寿同期会 迄 頑張るぞ　快気焔の第61、62期生

最近の同期会での会話では、あちらこちらで薬の話で盛り上がっているのも老齢になり、いかに健康を保つかで納得の行く事と思う。昨年の満場一致で決定した、米寿八十八才迄の第四十回の開催を目指して、各自健康に留意して目標に邁進するぞの相変わらずの戦争っ子諸兄の快気焔は健在であり、再会を約して閉会。

なお、同期の白井進君が中心となり「アジア、太平洋戦争の千葉市大空襲百人の証言」を熊谷千葉市長、中江元朝日新聞社長をはじめ、斯界の名士の推薦により発刊した。

昭和20年7月7日（七夕空襲とも云われている）千葉市の中心部より四方が空襲で焼野原となり、その悲惨なる状況を百三十人の体験をもとに編集したものであり、県内の学校はもとより全国の図書館からも頒布の申込があり反響を呼んだ。千葉市民はもとより、この記により千葉市の空襲が歴史的にも風化させない、誠に一読に値する貴重な資料である。

●昭和二十五年卒

矢島　肇

四年毎に行っている同期会が続いている。しかし、次回は一年繰り上げて開催する。同期の声は四年は待ち切れないと言う。年々月日の流れが早く感じているのに、現実四年間は待ち遠しい。

次回は三年後丁度八十才〝傘寿記念〟として平成二十三年四月二十九日に決めた。〝喜寿記念〟には奇しくも七十七名の参加であったが、今回は八十名に遠く及ばない。既に数名の訃報に接し、その上体調不良の友の近況を聞くと前回を相当下回るのではないか。高齢となると人一倍人恋しくなって来る。そんな時学友は掛替えのない仲間である。自分一人の命ではない。大切に生きて大切な友へ生きる力を与えて欲しい。又、友から生きる力を甘受しよう。

●昭和二十六年卒

久山　敬

隔年開催している同期会は、本年は十月十五日十二時から、京葉銀行文化プラザで行われた。

ご来臨いただいた早川先生を含め出席者は六十一名、ここ二年間で物故者が十名となったことは寂しい限りである。一方、卒業以来初めての参加者もあり、しばらくは誰であるかを確認し合う光景も見られたが、すぐに六十年の歳月を超えて談笑に入ったことであった。最後に千葉中校歌、千葉高校歌（われわれは旧中入学、新高卒業であった。）戦歌、凱旋歌を合唱し、再会を約して散会となった。

●昭和二十七年卒（二七会）

中村作二

我々二七会は今年の三月で、全員が喜寿を迎えることになり、来年には高校を卒業して六十年になります。

昭和二十一年に旧制中学に最後の中学生として入学した者、二十四年に新制高校に入学した者、および途中転入した者等、一度でも一緒に机を並べたことのある者を全部会員とすることにして、現在二九八名の消息を把握していて、隔年に「二七会」を開いています。

それで昨年六月六日に千葉駅近くの京葉銀行文化プラザで「二七会」を開催し、一一四名の出席者がありました。この歳でこれだけの人数が集まることを些か自負している年次です。集まった者たちはみな実際の歳よりは若く見えて元気で、大いに飲み食べ語らいました。

次回の来年は卒業六十周年になりますので、六月六日に同じ会場で、もっと大勢集まった会にしたいと思っています。

ゴルフ会も、葛城二七会（アンダーハンデ競技）が一二六回、美鶴会（新ペリア競技）が二十五回続いています。

●昭和二十九年卒「福の会」

川崎房枝

欲しいものは、なかなか手に入らないのに、齢だけはちゃんと戴けて二十年卒組は、とうとう後期高齢者となりました。でも私達は皆元気で、ことあるごとに顔を合わせ旧交を温めています。総会は六月十五日京成ミ

ラマーレで、間もなく「米寿」を迎えられる恩師早川先生を交え、五十三名の出席でした。いまだかくしゃくとした先生の力強いお話と乾杯で始まり、すっかり十八才の童心に帰り楽しい時を過ごしました。

九月には一泊二日で恒例の旅行を計画、木曽福島「昼神温泉」まで足を延ばし、五十数年ぶりの旧友も名古屋から参加して、賑やかな楽しい宴となりました。

「あら暫く！」で昨日の続きのように話ができるなんて、同級生以外ないですよね。旅の初日は寝覚めの床、元善光寺を見学し、二日目は妻籠宿の散策でした。

特に印象深かった妻籠宿は、ついこの間までこんな暮しをしていたのに、ここ四十年位で世の中めざましい発展を遂げ、何でもスイッチポンで間に合う時代になったものだとつくづく感じました。わたし達もスイッチポンで変身（特に若返り）できたらどうでしょう。

忘年会は十二月十九日、五一四ｍまで伸びたスカイツリーの正面にあるお洒落なホテルで、滋賀県大津から駆けつけた友を含め五十二名もの出席でした。楽しいお酒と食べものとおしゃべりの中、今日どうして出席したかという話題になると、みんな口を合わせたように「もしかして来年はねえ・・」と次の言葉を呑み込んでしまいます。「後期高齢者」がわたし達の気持ちを不衛生にしているのかしらと思ったりします。でも楽しかったです。

ゴルフ好きのグループは、今年も春と秋の二回少人数ながら箱庭のようなコースで和気藹々とプレーを楽しみました。

なにをするにも「健康が第一」を身に沁みて思う年頃です。他人を想い自分も大事にして一日一日を過ごしたいと思います。

●昭和三十六年卒

田那村　宏

古希を二年後に控えた私達は、平成二十二年十一月六日（土）、卒業五十周年記念同窓会を開催しました（於京成ホテル・ミラマーレ）。全国より七十一名の同期の皆が集まり再会を果たす事が出来ました。退職後第二の人生を歩まれている方が多い中で、引き続き現役として活躍している人も居ります。五十周年記念文集の作成を企画しましたところ二十二名の投稿を頂いた。編集・作成に協力頂いた方々に感謝いたします。その中から、題名を幾つか挙げて、思い出としてみたいと思います。

「無理しても健康に生きよう」「紅葉を見つける旅」「最果ての東の島」「出会いに感謝」「悠々自適」「折り紙に遊ぶ」「勉めてもまた勉めても」「大慈」「遠くて近い思い出」「緑」「卒業後の軌跡と現況」「越境入学の記」な

ど現在に至るまでの青春の思いが詰まったものになりました。卒業記念アルバムよりの写真も掲載され、当時が再現されました。同期会が永続されることを願いつつ先ずは古希の再会を。

●昭和三十七年卒

駒井隆子
朝生邦夫

◎今年も三七会の活動は、多方面に活発に展開されました。

「三七で歩く会」は、千葉高三七東海道五十三次を五月十五日2年2カ月にわたる長丁場を、完全踏破し、京都三条大橋にゴールインしました。

「三七山の会」は冬場の房州山歩き、シーズンのアルプスや八ヶ岳・蓼科山などの登山を楽しみました。

「三七ゴルフ会」は春と秋のコンペ中心に多数の参加を得ています。

「三七旅行の会」は、夏に甲州から浜松、伊那・天竜川地方に二泊三日の「熟年修学旅行」を実施しました。

サークル活動では「三七囲碁の会」と「三七卓球の会」とが、月に一～二回コミュニティセンターや会員宅で若さを保つために頭を鍛え、体を動かしています。秋には穂高に合宿をして交流しています。

「三七釣友会」は海釣りを楽しみ、「三七ヨットの会」は、航行を楽しみました。

お互いの連絡はＭＬを通じてネットを構築しています。

年末の一〇年忘年会で今年の活動のまとめをしました。

来年度に向けて卒業五十周年事業、名簿の発行等を企画しています。

◎昨年の同窓会報に紹介したように三七会・四三会の有志を中心として、稲葉正先生（物理）の米寿を祝う会を八月二九日に八十名の参加で開きました。

米寿記念誌「自然の理法　究めんと＝稲葉正不屈の人生」を出版しました。同窓生多数の執筆を感謝します。

残念ながら稲葉先生はこの行事後、十一月七日肺炎でお亡くなりになりました。

葬儀には千葉高関係者や公害反対の環境市民運動の関係者が多数集い、先生らしい自身の遺言挨拶がテープで流される中、無宗教・無戒名の明るくも厳粛な式でお別れをしました。

●昭和四十年定時制卒

ＯＳＢ会幹事長
谷中勝美

昭和36年入学した当時の2年間、たまたま同じクラスだった事が縁でクラス会を結成して以来49年、来年は50年目の節目の年を迎えます。

ここ4年続けてバス旅行での同窓会を行いましたが、今年は10月11日に千葉駅前の京葉銀行文化プラザで開催しました。出席者は7名と少なかったのですが、45年振りにお逢いできた方がいました。懐かしく、お互いに心境を語らい懇親を深める事が出来ました。

また、来年も開催したいと思っています。

平成22年11月1日記

●昭和四十四年卒　森　茂

『感謝還暦！』

とうとう還暦を迎え、同窓会総会の当番学年です。想えば、戦争に遭うことも無く、平和と成長の時代を生きて来ました。これまで支えて下さった沢山の方々に、心から御礼を申し上げます。

ところで、日本経済が活気を失いがちな昨今、人々もまた上を向くことが少なくなってはいないでしょうか？

私たちは、高度経済成長の過程で、国内的にも国際的にも、「勝つこと」を当然の目標と思い込んできましたが、これからは、限りある地球資源のことも考えて、勝つことではなく「負けない」こと、「共に生きる」ことが、一層大切になってくるのではないでしょうか？

元気な高齢者、微笑みを絶やさないリーダー…、まずは、「ご隠居さん」のあり方を前向きに探ってみることにしようと思っています。

「人を笑顔にすること、
それがリーダーの条件。」
白川由紀（写真家）

「老いて学べば、
死して朽ちず。」
佐藤一斎『言志四録』

※第四回同期会は、2月5日、同窓会総会・懇親会に引き続く二次会として、開催します。奮ってご参加ください。

（二〇一〇・十二・八記）

●昭和四十八年卒　始平堂玄昌

千葉高48会は、5年ぶりに同期会を開催しました。二〇一〇年六月十九日、サッカーの日本対オランダ戦の当日にもかかわらず幕張のホテルマンハッタンに約百四十名の参加がありました。

この5年間に亡くなった仲間の冥福を祈り、名簿上の行方不明者で、この度無事に生還を果たした48会会員3名による乾杯の発声を合図に大宴会に突入しました。クラス、クラブ、サークルなどあちこちで旧交を温めながら、あっと言う間に時間が過ぎ次回5年後の再会を約束し、校歌の大合唱で一次会を締めました。

2次会も90名の参加があり、すごかったです。3次会は、海浜幕張近くのカラオケで40名の参加で、エンドレスの夜を満喫しました。

翌日に後遺症の残る楽しい同期会でした。

●昭和五十年卒　園部　創

先日、大学時代のヨーロッパ・エジプト旅行仲間と会った。30年も経っているのに、昨日のことのように思い出し、懐しく当時を語り合った。やはり我々は同窓会エイジだった。

思えば千葉高を卒業して早36年。60歳還暦幹事となる千葉高大同窓会はあと6年、二〇一七年二月の開催。卒業して42年後の大イベントだ。我が学年には所在不明者がかなりいる。60歳までになんとか全員と連絡が取れた形にもっていきたい。

TV朝日がオンエアした「同窓会～ラブアゲイン症候群」。もう若くないから簡単に一線は越えられないのに、少年少女のあの頃以上に不器用でじれったい、キケンな大人の恋を描いた。実際は我々50代は尻込みするだけ。でも人々が言うように、同窓会を開いて真っ先に思い浮かべるイメージはやはり初恋。若くてすごく純粋だった頃の自分の恋心、友情を同窓会の間だけでも思い出して浄化される。だから同窓会に集まる。

二〇一七年はそんな同窓会にしたい。

●昭和六十一年卒　増田　淳

終戦の日は、必ず靖国神社に参拝する。護国の英霊に手を合わせ、平和への誓いを新たにする。思えば我が校の先輩も、出征し犠牲になられた方も多いと聞く。今、我々が、安心して暮らせるのは、国を護るために必

死で戦った方々のおかげである。

参拝を終え、蝉時雨の境内で一服。「やあ、しばらく。」「ここに来れば君たちに会えると思っていたよ。」果たして毎年、同じ時刻、同じ場所に集う同志の面々。国を愛し、先人を敬うこの会合は、毎年続けたいと思う。

私事で恐縮だが、来年、結婚する運びとなった。将来は子どもを何が何でも千葉高に…、などという野心は無いが、憂国の精神が次代に受け継がれることを心から願うばかりである。

●平成二十年卒

水谷裕真

平成二十二年一月、平成二十年に卒業した我々第六十期生は成人を迎える年に初の同期会を開催しました。

千葉高在校時に通い慣れたJR本千葉駅のすぐ近くにあるホテルプラザ菜の花で久々に集まった同期たちは成人を迎えたことで当時より少し大人びて見えたかのように思いましたが、会が始まれば場の雰囲気はかつて同じ教室で学び、あるいはやんちゃをしていた時と何ら変わらず、あまりの相変わらずさに

かえって言いようの無い安心感を覚えました。まだ未成年の者もいたため、ソフトドリンクのみで会場内禁煙としましたが、皆揃って懐かしいひとときを十分に満喫することができ、非常に良い会となりました。

私をはじめとする各クラス同窓会委員が中心となり準備を担当し、卒業後初となる同期会であったため開催の準備をしようにも右も左もわからず悪戦苦闘していましたが、阿佐事務局長をはじめ同窓会から多数の援助を頂き、盛大に実施することができました。心よりお礼申し上げます。

●平成二十一年卒

佐藤　悠

平成二十三年一月八日、成人式の前々日。私達の代としては初めての同窓会でしたが、まだ卒業から2年しか経っておらず、その2年間で連絡をとっていたり実際会ったりしていた友人たちもいたので、個人個人に対してはそこまで懐かしいという気持ちではありませんでしたが、県立千葉高校の生徒が集結している様子は、やはり懐かしい光景でした。特に、先生方にお会いできたことに、強くそう感じました。

そして、個人的には出された食事もおいしかったので、とても満足しています。すぐになく

（この後は16頁へ続く）

教育環境整備支援寄付金協賛者

【全日制】

昭和6年
小林敏明

昭和9年
池田壽雄

昭和10年
遠山富也

昭和11年
金子四郎
長谷川幸二

昭和12年
桜井正

昭和14年
吉川裕男
南雲信一
三宅勝利

昭和15年
相澤求
朝倉正充
鈴木邦一

昭和16年
國吉一司
高橋秀夫

昭和17年
佐々木二郎
高橋晃
篠崎敏夫
多田稔
田中克己
田中実
高橋泰一郎

布施千秋

昭和18年
石井宋司
齋藤守彦
増田吉儀
渡邊義男

昭和19年
井上誠
長林勝彦
森政二郎
吉井泰夫

昭和20年5卒
市角明
榎本和臣
中島秀次郎
幡川宏邦

昭和20年4卒
市川邦男
金澤伸吉
宍倉孝敬
松田照雄
山川喜弘

昭和22年
恩田利章
金田茂
黒須睦夫
中野繰一
堀幸男

昭和23年
関口七郎
高長谷禮司
牧野尚哉

峯岸俊夫

昭和24年
荒木毅
市川惇信
押尾輝明
前田隆

昭和25年
朝比奈浩
石井康裕
大塚和彦
矢野俊正

昭和26年
秋庭尚正
石井幸一郎
石橋和夫
大塚英夫
川人眞
久能泰輔
篠崎暎介
豊田一義
中田孝太郎
能勢仁
畑昭次
久山敬
松本敏朗
山本芳孝

昭和27年
石原宏
小川芳郎
海宝満男
小仲井誠次
小林昭雄

椎名益男
田川芳彦
土井國譽
土橋貞夫
西村禎起
細野城一
松本義明
水野謙一
森田正幸

昭和28年
阿部猛
相京溥士
市原守
植草弘子
小名木久夫
大淵昭
奥山浩
加藤里子
川俣俊一
神作博
須藤文仁
鈴木喜輔
鳥谷部年子
前田淑子
松本啓
安田博亮
山本節子
山本房江
渡辺若子

昭和29年
市川雅夫
佐藤正子
仁藤輝男
平野光子
三橋石治

吉田千世子

昭和30年
荒川章子
飯高和子
石原勝子
江川隆之
大木肇
木内二三夫
國吉昌良
齋藤義雄
鈴木敏夫
中山皓市
八鳥治久
平野菊夫
三谷太一郎
皆川あや子
宮原暁
和田耕一
綿貫弘一

昭和31年
石川江巳
石田甫
石橋凱夫
樫浦欣一
片岡環之
木村日出夫
香山俊彦
霜禮次郎
鈴木孝昌
関正憲
関谷敏
花澤弘子
早崎胖
松村治
村瀬恵光

柳沢慧二
渡辺喜夫

昭和32年
秋山由美子
大澤武
佐久間将夫
澤田悠紀夫
田中久枝
手島瑠水子
萩原茂彰
前迫美知子
松田匡平
宮原成雄
山内昭

昭和33年
阿部三樹
明星徹
大久保正
大野実
合間亨
川島一郎
川道よし子
佐川信夫
佐野暢俊
篠崎玄幸
篠崎清
須賀節子
田辺祺子
千年英吾
土屋冨士雄
二星嘉彦
根岸修子
橋本正信
古川幸子
増田豁

村松成夫
村山輝

昭和34年
梶真寿
霞忠雄
君成田弘志
小林英夫
椎名哲也
鈴木敏夫
高橋常雄
長島澔
中村好成
米田喬
渡辺治子

昭和35年
阿佐幸雄
小倉伸男
大川隆生
片岡寛
金杉光明
斉藤敏行
鈴木信一
高橋恒久
平賀彰
松永信孝
薬丸一洋

昭和36年
伊藤東
市原卓
江波戸健夫
小川紘二
加藤忠良
加納正俊
河野勝男
関口正彦

田那村宏
高橋秀禎
中野英昭
野村満
長谷川友善
原田一英
松田啓一
守正英
諸岡孝昭

昭和37年
宇田川善勝
木下哲郎
辻元洋一
萩原崇
堀野雅子

昭和38年
阿部紘武
伊藤栄一
石渡堅一郎
遠藤信幸
大塚達雄
木内宗雄
木村千秋
木村卓郎
久貝信夫
嶋田勝矢
杉山敏隆
高橋宏一
山下重毅
山本康昭

昭和39年
今井孝雄
植草健夫
岸本雅邦
白石和子

相馬晋吾　角田正健　戸村泰夫　成子由則　長谷川和敏　浜田敏男　福岡奉子　村杉雅敏　谷仲秀夫　山口光済　山田雅敏

昭和40年

伊東賢治　伊藤兼六　伊原健　沖博之　川上代四郎　沢田茂　勝呂徹　中村孝　浜名賢一　林美智代　広瀬彰　藤倉國男　藤野清治

昭和41年

寺本健　那須初江　森喬　矢島浩明

昭和42年

伊藤博史　岩下豊久　大浦明　君塚誠　小坂宏子　四宮茂　中西章　中野彰子　村山元信　山本重徳　吉成隆杜

昭和43年

安倍光昭　姉帯幸雄　石山美知子　吉清裕行　小石川富美子　小出貢二　佐久間清恵　佐藤幸雄　杉浦恵子　時田清　並河幸治　早川廣美　古屋信明

昭和44年

相川哲男　石川秀夫　梅沢敏徳　島野光　菅谷義範　南雲一夫　箕輪正美　守屋栄子　八尾とし子　吉田悦子

昭和45年

市原豊　大塚克己　古宇田フミ子　小島公平　佐藤孝史　坂下善隆　関根新　星野隆　丸山京子　吉原憲一　米元康蔵　伊藤靖　鵜澤実治　大島裕志　金上孝　桐原仁子　神代隆史　西洋一　平岡映子　藤木正則　矢澤孝文　山下悦子

昭和46年

野田美佐代　長谷川耕司　湯川昌彦　石井裕子　河野敬　重久義明　鶴岡茂樹　長谷川弘子　逸見真名子　三宅崇雄　森口浩　岡村宏太郎　栗原俊一　佐藤京子　瀬戸倫義　鶴岡美代子　北村行伸　小迎森一樹　寺島徹　奥田桂子　加曾利要介　竹内桃子　永島裕史　橋本ゆう子　山本喜一　竹澤容子　千葉總一郎　村井裕　有山若野　安東昌子　川畑久子　児玉信一　内藤栄男　南家三津子　小林俊亮　野崎正則　川村千津　相川健　佐々木浩志　曽根恵美子

昭和47年

昭和48年

昭和49年

昭和50年

昭和51年

昭和52年

昭和54年

昭和55年

昭和56年

時田洋史　板垣章子　小林信幸　鈴木卓　高橋正明　花澤信太郎　松永千穂　山崎真巳　清水裕久　菅原準一　千葉公慈　時田健二　塩田晃　南雲憲一郎　三浦恵美　八木健一　中岡照夫　村上公一　和仁原和彦　小島桂子　宍倉竹彦　鈴木善継　舘野周　石川直人　高田宏臣　渡部孝雄　竹下のりこ　土田宏成　古内和明　内田三四郎　高倉裕輔　宮下賢一　香川賢司　引野剛　忍足幸三　木村美穂　中田弥生　堀田武則　渡邊貴和　青柳有香　菊池俊哉　小原俊央　松本歩美　鍋井敬文　表敬介　菅仁　平井清雅　東寿浩　多部美佐恵　吉本一紀　尾村亮　木全啓　堀口祥子　渡邊聖崇　浅尾秀之　遠藤壌　北村康之　宮下理　朝生直樹　小川迪子　遠山雄大　平野大吾　江原彩子　帰山隼　粕谷由佳　唐鎌行大　菊池恵美真　栗原恵利華　染谷直希　石井萌　石丸純一　大内麻愉　金瀬篤彦　佐藤真行　中桐洸太　渡邉毅士　大久保直輝　粕谷賢太郎　佐藤悠　水流添望

昭和54年

昭和55年

昭和56年

昭和57年

昭和58年

昭和59年

昭和60年

昭和61年

昭和62年

昭和63年

平成元年

平成2年

平成3年

平成4年

平成5年

平成6年

平成7年

平成9年

平成11年

平成12年

平成13年

平成14年

平成15年

平成17年

平成19年

平成20年

平成21年

【定時制】

昭和28年　石川茂

昭和30年　古川太一郎

昭和35年　田辺昭子

昭和37年　永田忠以

昭和38年　平野孝

昭和40年　山田嘉明

昭和41年　田中秀夫

昭和43年　新井初子

昭和44年　岩沢輝勝　千田春雄　内藤佳實　西村和己

昭和46年　佐藤鼎　二宮康

昭和48年　大塚眞由美

昭和51年　川岸ミツヨ

昭和54年　佐藤雅之

昭和55年　加藤義徳

平成22年3月より23年12月31日現在

なってしまうかと思っていたら、量がたくさん出ていておいしく食べることができ、これで千円はとても安いと思いますし、参加者が多かった理由でもあると思います。同じ時期に開催された中学校の同窓会に出席して、より、そう感じました。

次は10年後の同窓会を予定しています。その時の自分は全く想像もつきませんが、とりあえずは仕事に就いておいて欲しいと願っています。円満な家庭を築いていたならなお良いのですが…。

そして、今回は阿佐同窓会事務局長に何から何までお世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

葛城だより

◎平成二十一年度受章者

心からお祝い申し上げます。

瑞宝双光章　坂本治雄（昭20）天沢退二郎（昭30）
瑞宝双光章　伊藤克郎（昭32）
瑞宝双光章　大野宣剛（昭32）
瑞宝中綬章　岡本裕之（昭33）
瑞宝小綬章　小川修司（昭33）
旭日双光章　黒澤聡樹（昭37定）
紫綬褒章　芦谷公稔（昭53）

〈卒業年順〉

◎逝去者（役員・理事）

謹んでご冥福をお祈りします。

（ご連絡のあった方のみ掲載）

飯豊章雄（昭19）22年4月25日
常泉吉朗（昭26）22年2月9日
樋口虎男（昭34定）22年9月13日
松戸隆道（昭36）22年2月5日

〈卒業年順〉

◎寄付者

心からお礼申し上げます。

昭和十九年卒同期会（一九葉会）
1、050、552円
昭和二十年五卒同期会（新葉会）
20、000円
昭和二十年四卒同期会（禄寿会）
20、000円
昭和四〇年卒同期会
100、000円
宮地（旧姓森本）健三氏（昭19）
1、000、000円
図書館への寄付（本・書架・ソフト購入）

〈敬称略〉

教育環境整備支援寄付
同期会や支部、個人からの寄付を受付ています。

母校の整備のための寄付を募っています。ご寄付頂いた方には同窓会報を送らせて頂き、お名前を会報に掲載いたします。（不掲載希望も可）

なお、お振込みの節は、**卒年とお名前**を明記して下さい。

●千葉銀行　長洲支店　普通
店番号：005
口座No.：3227188

●千葉興業銀行 千葉支店 普通
店番号：111
口座No.：5519371

●京葉銀行 本町支店 普通
店番号：411
口座No.：9865501

●千葉信用金庫都町支店 普通
店番号：023
口座No.：0702279

◆口座名儀（4行全て同じです）
千葉県立千葉高等学校
同窓会会長　霜　禮次郎

●ゆうちょ銀行 振替口座No.
00140-6-33667
口座名：千葉県立千葉高等学校同窓会

編集後記

中学の校庭

我の中学にありたる日は
艶（なま）めく情熱になやみたり
いかりて書物をなげすて
ひとり校庭の草に寝ころび居しが
なにものの哀傷ぞ
はるかに青きを飛びさり
天日直射（てんじつ）して熱く帽子に照りぬ

（萩原朔太郎　純情小曲集より）

学生時代を思い出すと良く口に出てくる詩です。同窓生の皆さん、千葉高の思い出を胸にますますご活躍ください。多くの原稿をありがとうございました。

五木田　純（昭48）

先頃、私にも同窓会があった。中学のものであるが、そこにはやはり懐かしい顔、顔。卒業後はそれぞれの道を歩いていても、当時の話になれば、針を戻したような時間の流れ。まだ先のことかもしれないが、ここに先輩方が報告されているような楽しい一時を今後は高校の皆と過してみたいと思うこの頃である。

山田　英文（昭54）